

千葉県農協青年部協議会 ポリシーブック2025

～若手農業者における行動目標と政策提言～



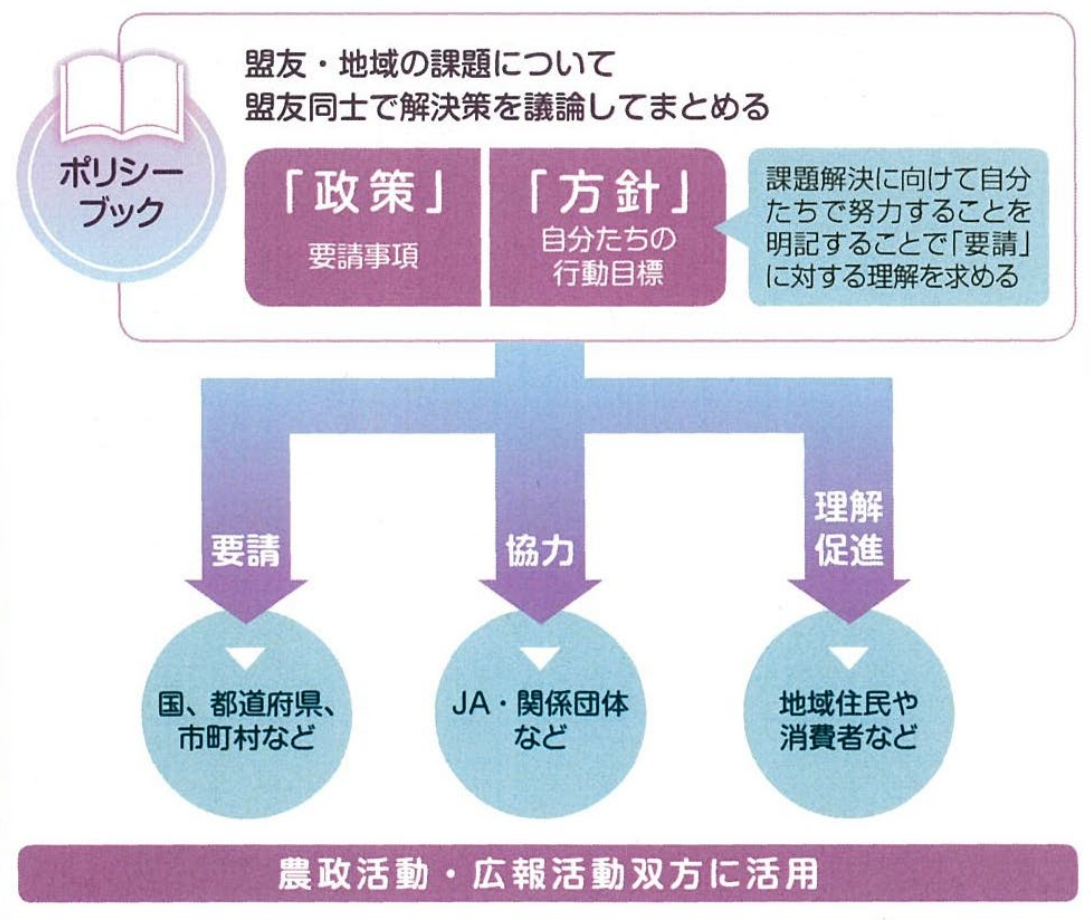
ポリシーブックとは？

JA全青協では、平成23年度より「ポリシーブック」の作成を開始しました。ポリシーブックを一言で表すと「JA青年部の政策・方針集」となりますが、その作成にあたっては現在の政策を出発点とするのではなく、JA青年部の盟友一人ひとりが営農や地域活動をしていくうえで抱えている課題や疑問点について、盟友同士で解決策を検討してとりまとめている点が特徴です。

また、そこには政策として要請することだけでなく、まず自分たちで解決に向けて努力し、取り組むことが明記されています。つまり、「自分たちの行動目標」と「積み上げによる政策提案」の両方を備えたものがJA青年部の「ポリシーブック」となります。

JA全青協では平成22年度に北海道で先行取り組みを行い、平成23年度より全国的に「ポリシーブック」の作成に着手しています。平成24年度には、ポリシーブックの先進地である米国視察を行い、さらなる取り組みの強化に向けて全国の若手農業者が一体となって努力しています。

ポリシーブックの概要



■ 行動目標としてのポリシーブック

ポリシーブックには、課題の解決策を政策として提言するだけでなく、まず自分たちで解決に向けて取り組むことを明記しています。

農業に関する要請を行うと、「また、農業団体が補助金欲しさに要請活動をしてるぞ」などといういわれなき批判をされることがしばしばありますが、課題解決に向けてまず自分たちが努力をしていくことで、わが国の責任ある農業者として、地域住民や消費者なども含めた幅広い関係者に理解を求めていきます。

■ 政策提案としてのポリシーブック

食料・農業・地域社会をとりまく状況が日々変わるなか、農業経営に大きく関わる課題について、与野党を二分するような議論となることが今後も想定されます。そうしたなかで、われわれ若手農業者の思いを対話を通じて伝えていくという、議員への働きかけによる農政運動の取り組みがより重要となります。

将来の日本農業を担う若手農業者が安定した農業経営を行うためには、農業政策の基本となる部分が制度的に安定していることが重要であり、政争の具とされることが、あってはなりません。

そのためには、農業者の立場から農業政策について自らの考えを持ち、全国の現場の声を積み上げ、その政策を支持する国会議員を応援していくことが、長期的な視点で農業政策に自分たちの意見を反映させ、かつ安定した制度を築くために必要な取り組みと考えています。

ポリシーブックの取り組みの流れ

▶ Plan

議論を深め、課題を共有しよう

- 自分たちの想いはどこにあるのか

▶ Do

計画を実行しよう

- 自分たちで行うと決めたことを確実に行うことが地域からの信頼を得るための条件
- 要請を各方面に行い、JA青年部の政策を実現してくれる味方を多く作る

▶ Check

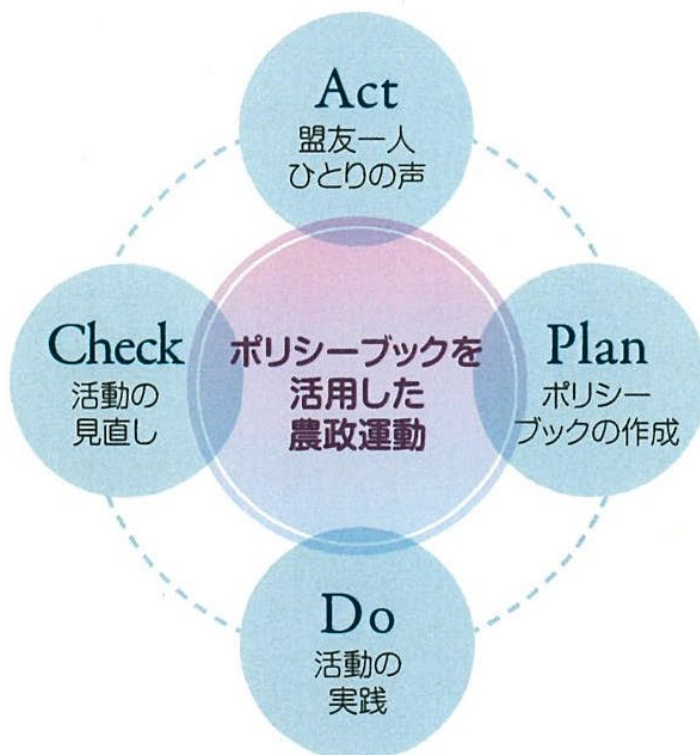
確認をしなければ進歩はしない

- 自分たちで行ったことが、当初の目的を達成できているか確認しよう
- 要請した内容が反映されているか確認しよう

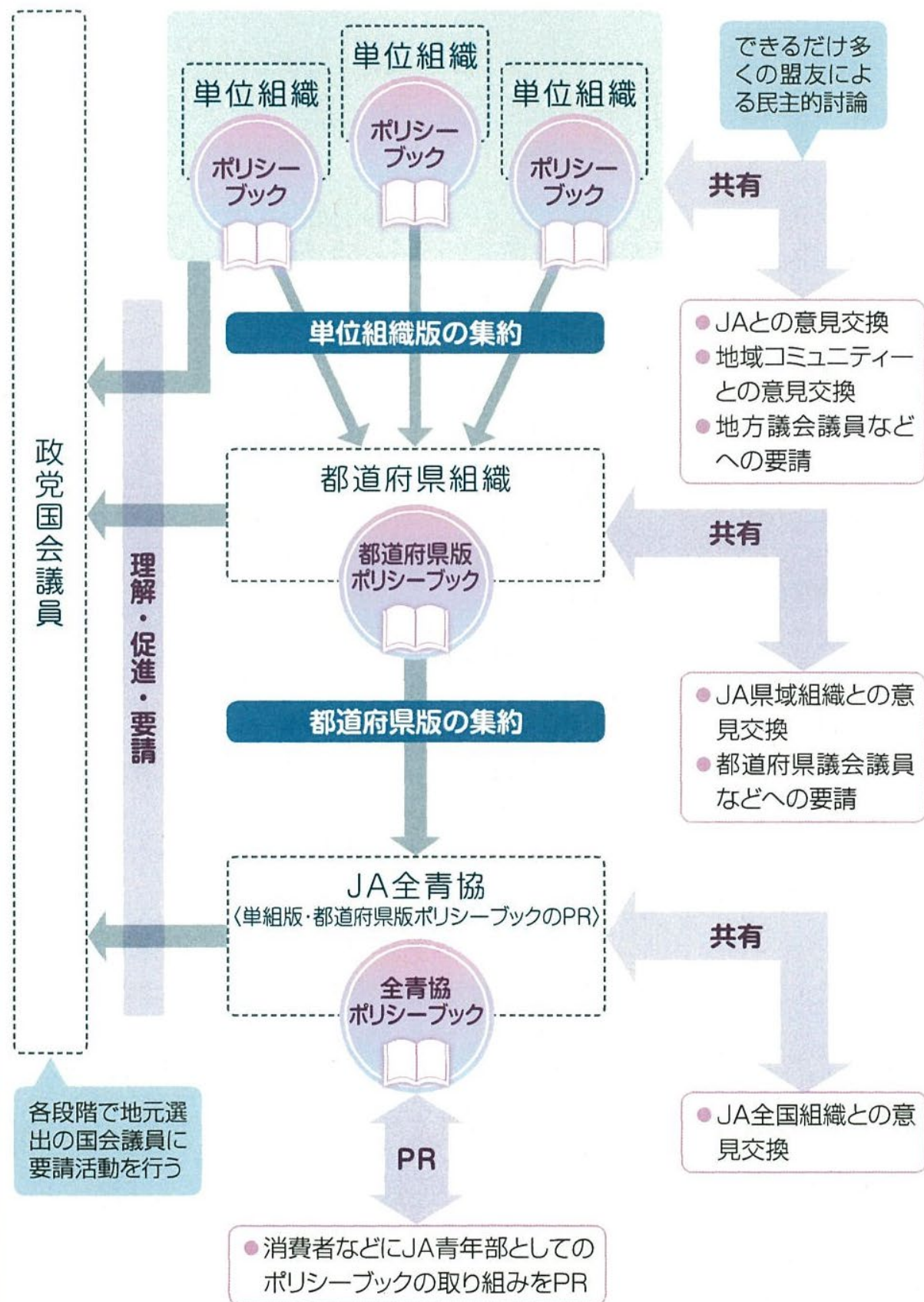
▶ Act

随時活動を見直そう

- 活動を行いながら必要な修正を随時行おう
- 大きな修正は翌年のポリシーブックに反映させていこう



ポリシーブック作成・活用の流れ



ポリシーブック作成や意見交換プロセスが組織強化や活性化につながる

目次

I. ポリシーブック策定にあたって

II. 若手農業者が抱える課題と行動目標について

1-1. 農業所得の向上対策について（販売）

1-2. 農業所得の向上対策について（コスト）

1-3. 農業所得の向上対策について（災害対策・セーフティネット）

2. 米の需給対策について

3. 担い手対策について

4. 畜産・酪農対策について

5. 都市農業対策について

6. 鳥獣被害対策及び外来生物対策について

7. 労働力確保について

8. 青年部の組織強化について

9. インフラと共同設備の整備について

10. 食育活動について

11. その他（JA・行政依頼事項）

I. ポリシーブック策定にあたって

本県では、平成24年12月にポリシーブックを策定し、自らの課題解決に向けた行動目標の整理と政策提案に活用してきましたが、様々な課題を盛り込んでおり、何を一番に伝えたいのかがわかりづらいという課題をふまえ、ポリシーブックを抜本的に改善するため、平成30年度にポリシーブック検討委員会を設立し、新たなポリシーブックを作成しました。

ポリシーブックを作成する上での重点事項は、「見やすく」、「わかりやすく」です。そこで、短い言葉で伝わるように記載しています。また、ポリシーブックは自らの行動目標であるとともに、政策要請のツールでもあることから、要請先に伝わりやすいよう、千葉県地図を使い、どの地域が強く要望しているのか一目でわかるように工夫しました。

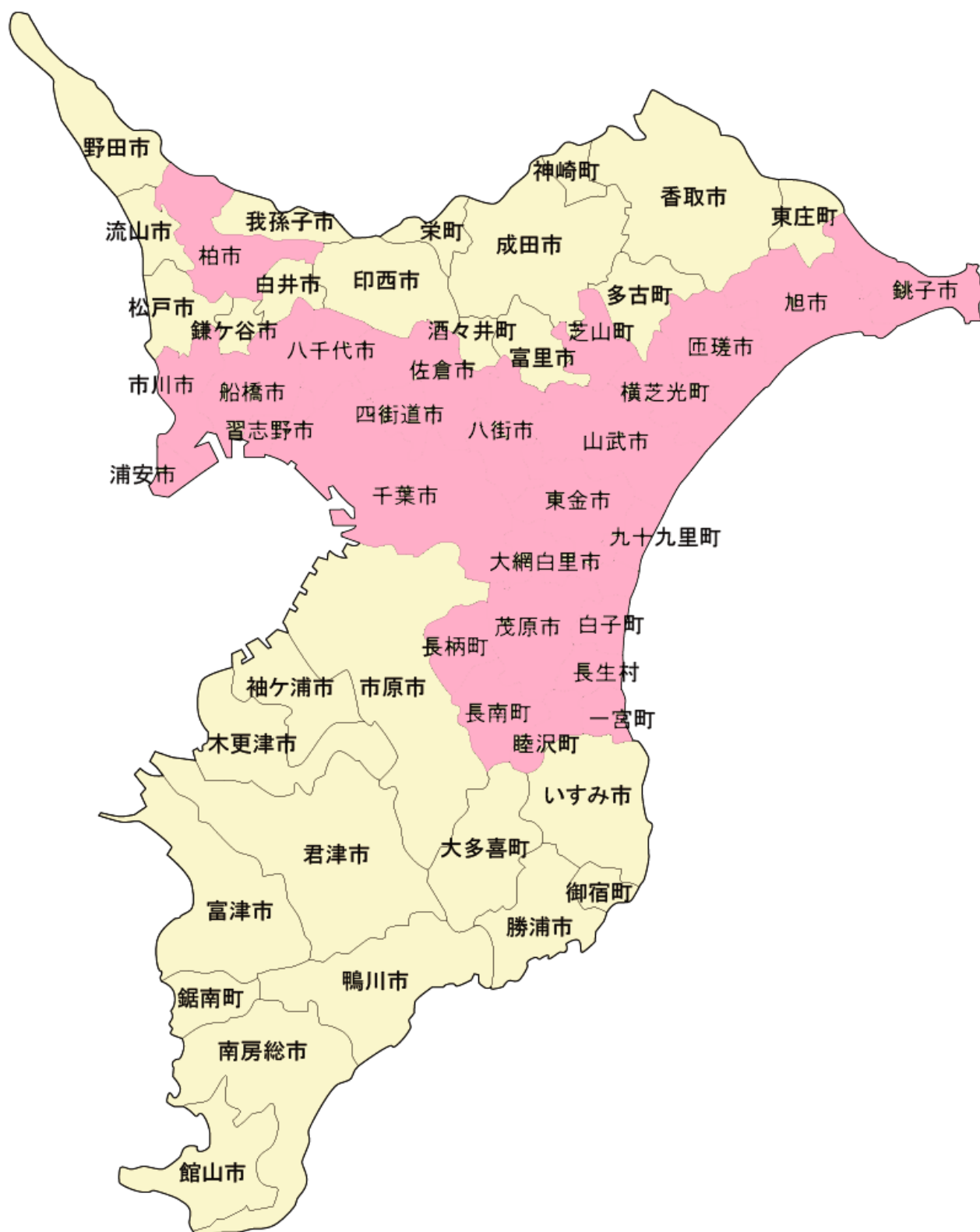
構成は、まず理想を掲げ目指すべき方向性・目標を明確にしたうえで、現状・課題を明記し、自分たちが置かれている立場を確認しました。その状況を踏まえ、理想を実現するために私たち青年部員は何をしなければならないか、何をすることができるかを記載しました。あわせて、理想を実現するために行政やJAに依頼したいことを記載しました。

県域版ポリシーブックは単組版ポリシーブックを集約したものです。このため、単組版ポリシーブックを全単組で策定する取り組みも並行してすすめ、単組版から課題等を抽出しました。県域版のみならず単組版も全加盟組織が保有しているため、より具体的な、地域実態に即した「青年部として取り組むこと」「行政やJAに依頼したいこと」を明確化しております。これらを用いて課題解決をすすめていくことにより、今後の若手農業者を取り巻く環境が向上することを期待しております。

令和7年10月

千葉県農協青年部協議会





千葉県内ＪＡ数・・・・・・・・・・１７ＪＡ
 千葉県農協青年部協議会加盟数・・・６単組
 ※ピンク色で塗られている部分が加盟組織に該当

Ⅱ. 若手農業者が抱える課題と行動目標について

1-1. 農業所得の向上対策について（販売）

○ 理想

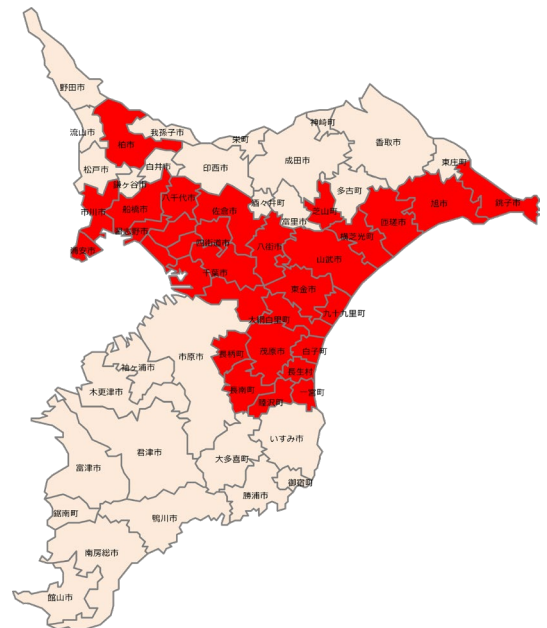
- ・再生産可能な安定した収量・所得を確立する
- ・コストに見合った生産者手取りを確保する

○ 現状・課題

- ・生産にかかるコストが高騰しているが、価格に転嫁することができていない

○ 我々青年部が取り組むこと

- ・コストに見合った販売価格となるよう、様々な場面で働きかける
- ・価格転嫁に向けたPR活動を積極的に行う
- ・生産コストを把握する
- ・食農教育、イベントへ積極的に参加し地元の農産物のPR活動を行う



- ↑
- ・強く要望している加盟組織（赤）
 - ・それ以外の加盟組織（ピンク）

行政・JAに取り組んで欲しいこと（行政に依頼：行、JAに依頼：J）

要望先	要望内容
行	市場・小売価格が生産コストに見合った価格となるよう市場・小売などを監視・指導して欲しい
行	食料自給率向上のため、食の国産化を推進して欲しい
行 J	価格転嫁や農産物の価値に関するPR活動に積極的に取り組んで欲しい
行 J	行政とJAが連携し、食育活動及びイベントを通じて消費拡大に向けた取組みを行って欲しい
J	価格交渉をさらに強化するよう尽力して欲しい
J	契約・直接取引・加工など、コストに見合った取引先を紹介して欲しい
J	コスト低減に向けた見直しをして欲しい
J	TV番組、SNS等メディアを使い、農畜産物の消費拡大に繋がるPR活動を実施して欲しい

1－2. 農業所得の向上対策について（コスト）

○ 理想

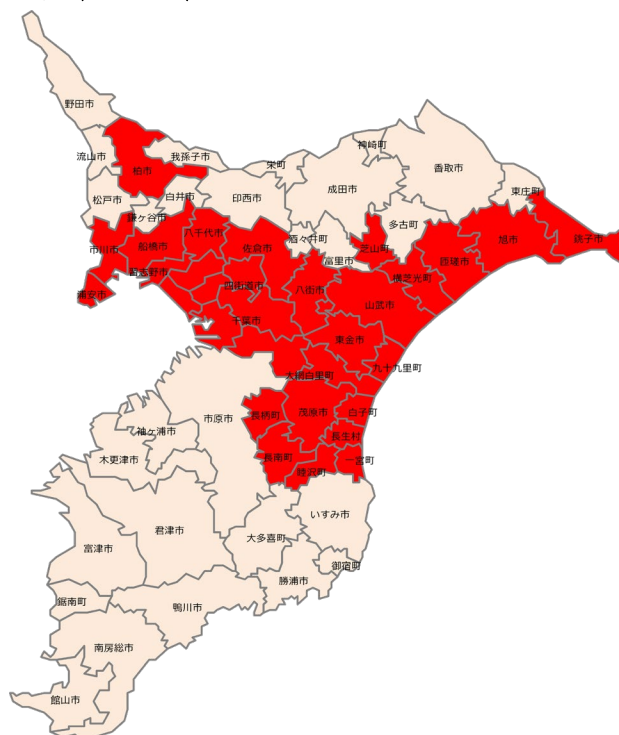
- ・生産資材の価格安定
- ・コストに見合った生産者手取りを確保する

○ 現状・課題

- ・生産コスト（燃料・資材・飼料・人件費など）の急激な上昇に農畜産物価格が釣り合っていない

○ 我々青年部が取り組むこと

- ・低コスト化の勉強会を開催し、自らの経営を見直す機会を増やす
- ・出荷形態の見直しや出荷コストを下げる努力をする
- ・土壌診断の実施による適正施肥の把握
- ・化成肥料の価格上昇に伴う有機資材への代替利用の推進



↑・強く要望している加盟組織（赤）
・それ以外の加盟組織（ピンク）

○ 行政・JAに取り組んで欲しいこと（行政に依頼：行、JAに依頼：J）

要望先	要望内容
行	生産コスト上昇にかかる支援が欲しい
行	補助事業（ハード事業）の増額・要件緩和（「輝け！ちばの園芸」事業）をして欲しい。また、若手農業者に別枠として加算してもらいたい
行	堆肥センターの整備をしてもらいたい
行 J	廃プラの野焼きや不法投棄の問題対策として、廃プラ処分にかかる費用の補助をしてもらいたい ※農業用廃プラスチックとは、農業で使用し終えたハウス用のビニール、マルチ、肥料袋等の産業廃棄物のこと
J	低コスト化の取り組みについて、情報提供をさらに強化して欲しい
J	土壌診断の利用推進と周知、分析結果の速やかなフィードバックをして欲しい
J	生産コストの低減に向けたコスト見直しをして欲しい
J	レンタル農機事業にかかる情報提供・農機の更なる拡充をして欲しい

1-3. 農業所得の向上対策について（災害対策・セーフティネット）

○ 理想

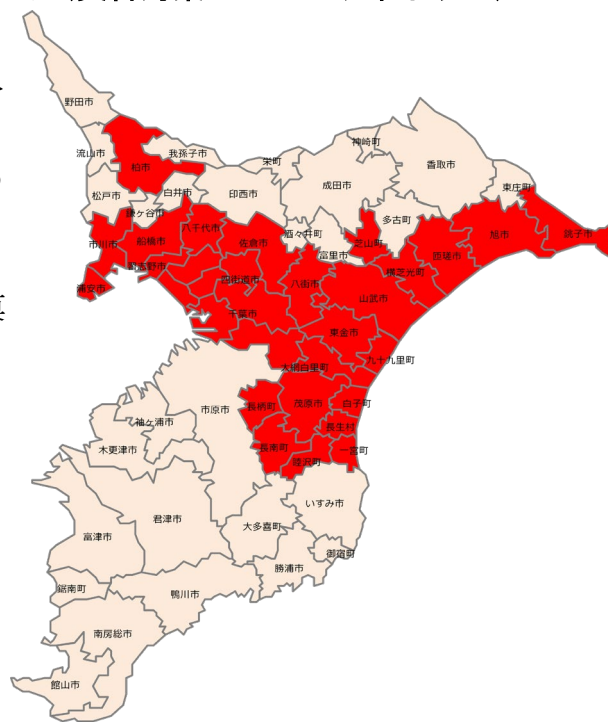
- ・気候変動に負けず、安定した収量、所得を確立する
- ・被災後も営農を継続していける環境を作る

○ 現状・課題

- ・気象災害が多発しており、特に中・小規模農家は被害を受けるとダメージが大きい

○ 我々青年部が取り組むこと

- ・発生した災害に対し、千葉県青協～Bondsネットワーク～を活用して、被害に遭われた県内外の農業者等へ迅速で適切な支援を行う。
- ・災害時迅速な物的・人的支援を行うため、関係団体と協力を行う。
- ・制度（NOSA I、収入保険、経営安定対策など）に関する勉強会を開催する



- ↑ ・強く要望している加盟組織（赤）
・それ以外の加盟組織（ピンク）

○ 行政・JAに取り組んで欲しいこと（行政に依頼：行、JAに依頼：J）

要望先	要望内容
行	災害発生時には、迅速かつ万全な対応をして欲しい
行	迅速な農業経営再建が可能な経営安定対策を行って欲しい
J	様々な情報（被害額・被害地域）について、迅速に情報提供して欲しい
J	災害時に被害が発生した青年部員に対して迅速に物的・人的支援をする仕組みづくり

2. 米の需給対策について

○ 理想

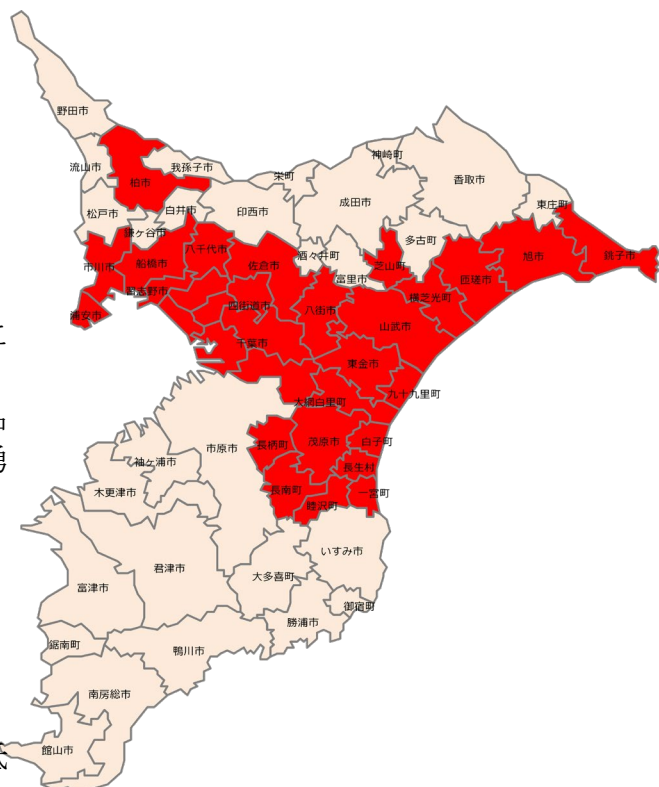
- ・売価が安定している
- ・適切な需給バランスが保たれている

○ 現状・課題

- ・少子高齢化や食の多様化による米離れにより米消費が減少している
- ・資材価格の高騰や、高温障害等による品質や収量の低下など、生産への意欲が湧かない

○ 我々青年部が取り組むこと

- ・一般消費者へ千葉県産米をPRし、国産国産への理解を深める
- ・JAや関係団体と連携し、生産コストの低減等に努める



- ↑ ・強く要望している加盟組織（赤）
・それ以外の加盟組織（ピンク）

○ 行政・JAに取り組んで欲しいこと（行政に依頼：行、JAに依頼：J）

要望先	要望内容
行	学校給食における米飯給食の頻度を増やして欲しい
行	米価格の安定に向け、需給バランスを鑑みた水田活用の直接支払交付金を活用した政策を講じて欲しい
行	高温耐性品種や新技術についての情報共有をして欲しい
行 J	中長期的な主食用米の需要減少に向けた米の消費拡大に向け、消費者へのPRを行って欲しい

3. 担い手対策について

○ 理想

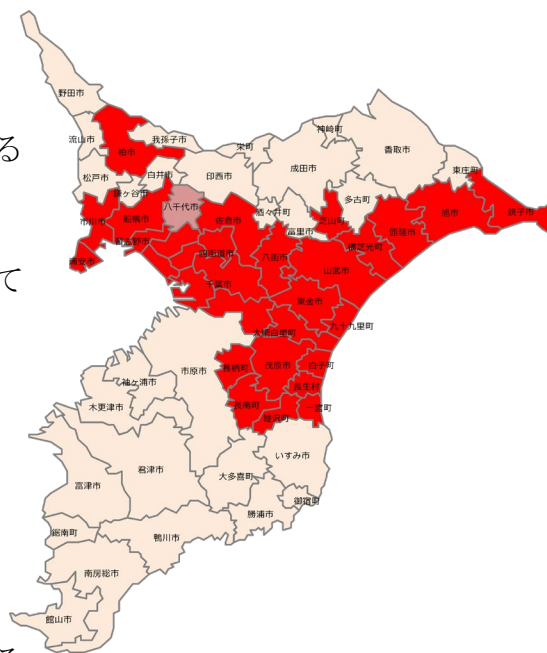
- ・新規就農しやすい環境づくり
- ・周りに良きライバルがいて、切磋琢磨できている

○ 現状・課題

- ・将来の経営的不安から他産業への人手が流出している
- ・新規就農者が地域に定着しない
- ・交流の場が少ない
- ・盟友数が減少している

○ 我々青年部が取り組むこと

- ・スムーズな事業承継への取り組み
- ・県全体・単組間・支部間での交流の場を設ける
- ・新規就農者に対し、青年部が良き相談相手となる
- ・盟友数拡大に向け、加入促進の働きかけを行う



↑・強く要望している加盟組織 (赤)
・それ以外の加盟組織 (ピンク)

○ 行政・JAに取り組んで欲しいこと（行政に依頼：🏛️、JAに依頼：🇯🇵）

要望先	要望内容
🏛️	新規就農者や農業生産法人に就農した場合の助成措置を見直して欲しい
🏛️	事業承継しやすい施策・助成措置を拡充して欲しい
🏛️	青年部加入促進に向け、新規就農者等を我々に紹介をして欲しい
🏛️🇯🇵	空きハウス利用のマッチングを推進して欲しい
🏛️🇯🇵	若手経営者や新規就農者への技術・経営のサポートをして欲しい
🇯🇵	盟友数拡大に向けて、加入促進の働きかけを協力して行って欲しい

4. 畜産・酪農対策について

○ 理想

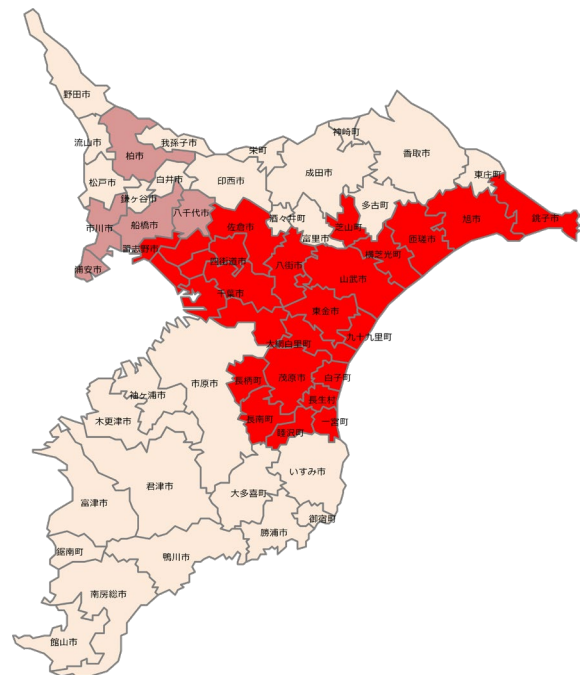
- ・国産自給率が向上している
- ・病害獣・伝染病に対する対応が迅速に行われている

○ 現状・課題

- ・輸入飼料の高騰が続き生産原価の上昇に販売単価が見合わず厳しい経営状態が続いている。
- ・飼養頭数は変わらないが農家戸数が減少している
- ・経営安定対策の財源不足が見込まれる
- ・鳥インフルエンザ等、家畜防疫に関するリスクが増大している

○ 我々青年部が取り組むこと

- ・自給飼料の増産や未利用資源を活用し、コスト削減に努める
- ・飼養衛生管理基準を遵守する



- ↑・強く要望している加盟組織（赤）
・それ以外の加盟組織（ピンク）

○ 行政・JAに取り組んで欲しいこと（行政に依頼：行、JAに依頼：J）

要望先	要望内容
行	国内畜産物の輸出強化に向けた取り組みを強化して欲しい
行	家畜防疫に関する水際対策(国内への持ち込み、農場への持ち込み対策)を強化して欲しい
行	耕種農家への自給飼料(飼料用米など)の生産依頼・マッチングを積極的に行って欲しい
行	鳥インフルエンザ対策の強化を行って欲しい
J	病害獣に関する勉強会を開催して欲しい

5. 都市農業対策について

○ 理想

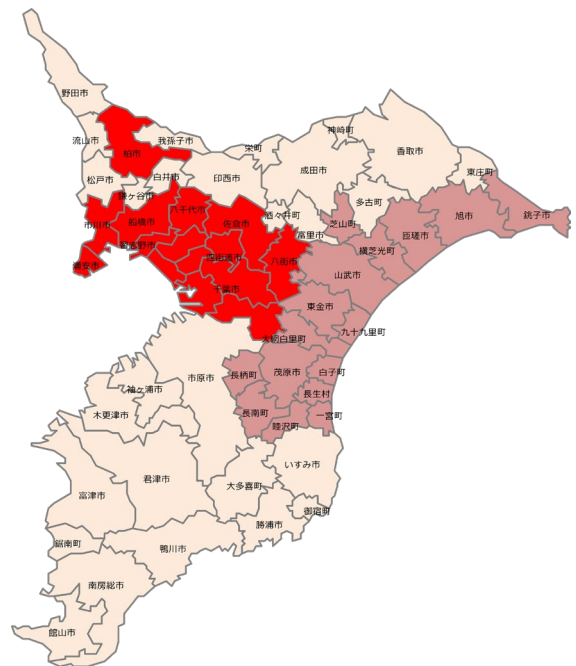
- ・都市における農業経営が維持できている
- ・都市部住民の農家に対する理解度が向上している

○ 現状・課題

- ・固定資産税や相続税等の税負担が重い
- ・騒音・臭い・薬剤散布の問題から地域住民とトラブルになるケースが多い
- ・相続により農地面積が減少している
- ・小規模のため農業収入確保が困難

○ 我々青年部が取り組むこと

- ・防災用地としての必要性など、農地のあるメリットを訴える
- ・地域住民に対する地産地消を推進する
- ・非常時の食糧・お手洗いの確保など、災害時の活用をアピールする



- ↑・強く要望している加盟組織（赤）
・それ以外の加盟組織（ピンク）

○ 行政・JAに取り組んで欲しいこと（行政に依頼：行、JAに依頼：J）

要望先	要望内容
行	現行の相続税納税猶予制度を堅持して欲しい
行	市街化区域農地に関する固定資産税を減額して欲しい
J	食農教育活動を通じて地域住民が農業と触れ合う機会を作り、農業に対する理解を深めて欲しい
J	都市農業に関する法律制度に関する迅速な情報提供をして欲しい

6. 鳥獣被害対策及び外来生物対策について

○ 理想

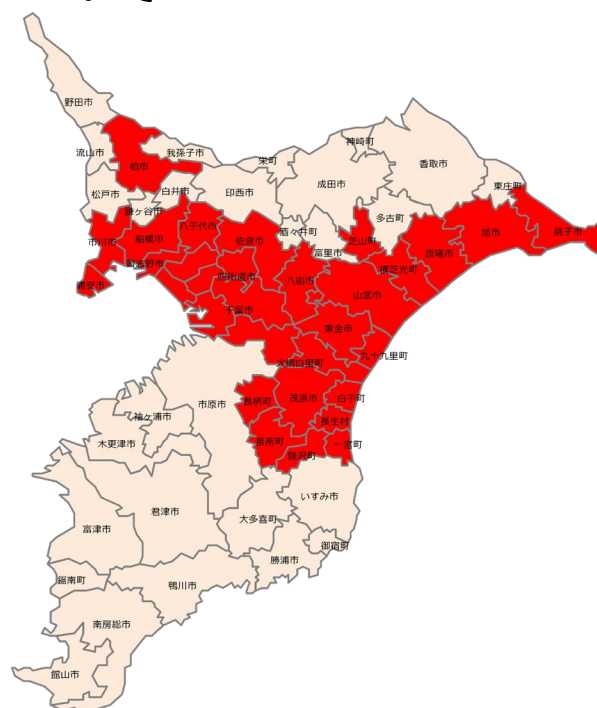
- ・鳥獣被害が撲滅されている
- ・外来生物が撲滅されている
- ・生態系バランスが健全化されている

○ 現状・課題

- ・被害が表面化しなければ対策を講じない
- ・狩猟銃免許の取得要件や金銭負担が重く、猟友会との接点もない
- ・鳥、イノシシ、ジャンボタニシ等による農産物被害により、経営に影響が生じている

○ 我々青年部が取り組むこと

- ・集落内に鳥獣の餌になるものを残さない
- ・鳥獣害に対する知識を深め自己防衛を強化する
- ・箱ワナ資格制度についてPR・推奨する
- ・農地の清掃に努める
- ・忌避資材等の積極的な活用



↑・強く要望している加盟組織（赤）
・それ以外の加盟組織（ピンク）

○ 行政・JAに取り組んで欲しいこと（行政に依頼：行、JAに依頼：J）

要望先	要望内容
行	被害状況に応じた柔軟な有害鳥獣被害防止対策をして欲しい
行	捕獲した有害鳥獣の処分を明確にしてもらいたい
行	免許制度を簡素化して欲しい
行	電気柵、箱わな等の助成措置を拡大してほしい
行	山林の清掃と環境整備をして欲しい
J	行政の補助事業を周知して欲しい

○ 理想

- ## ○ 現状・課題

- ## ○ 我々青年部が取り組むこと

-
- A map of Aichi Prefecture, Japan, showing the locations of various cities and towns. The map is color-coded: red for cities (shi) and orange for towns (cho). The cities shown in red include Nagoya, Toyota, Yokohama, and others. The towns shown in orange include Gifu, Shizuoka, and others. The map also shows the surrounding prefectures of Gifu, Shizuoka, and Mie.

○ 行政・JAに取り組んで欲しいこと（行政に依頼：、JAに依頼：）

11

8. 青年部の組織強化について

○ 理想

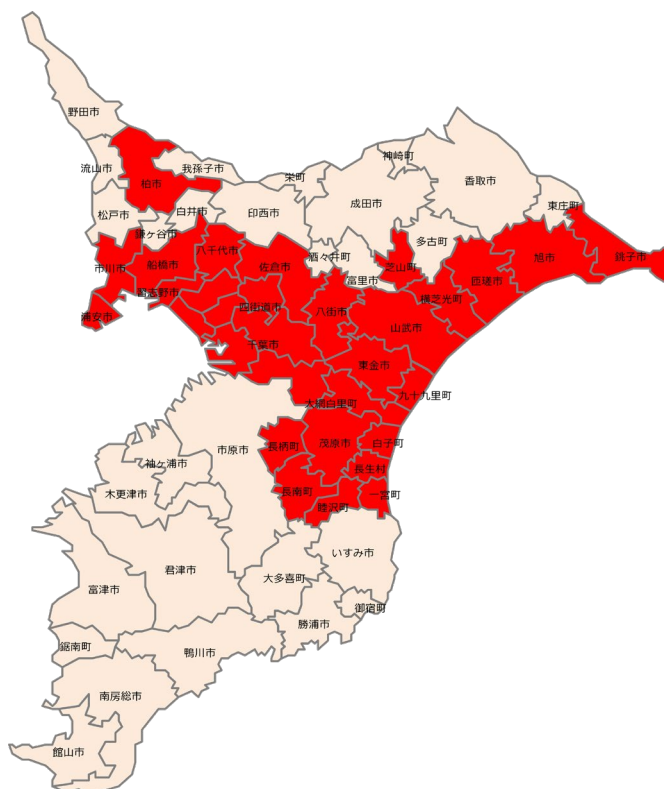
- ・各 J A において青年部の意見が反映されている

○ 現状・課題

- ・ J A 運営において各青年部盟友の意見が反映されていない
- ・青年部理事枠を設ける J A が少なく事業運営に関与できていない

○ 我々青年部が取り組むこと

- ・ J A の事業運営に積極的に参画する
- ・的確に意見を提言できるよう J A 事業について理解を深める
- ・青年部活動を活性化し、盟友の結束力を高めるとともに、相互知識の研鑽に努める



- ↑ ・強く要望している加盟組織（赤）
・それ以外の加盟組織（ピンク）

○ 行政・ J A に取り組んで欲しいこと（行政に依頼：行、 J A に依頼：J）

要望先	要望内容
J	各 J A の青年部理事枠を創設して欲しい
J	J A 役員との意見交換を行う

9. インフラと共同設備の整備について

○ 理想

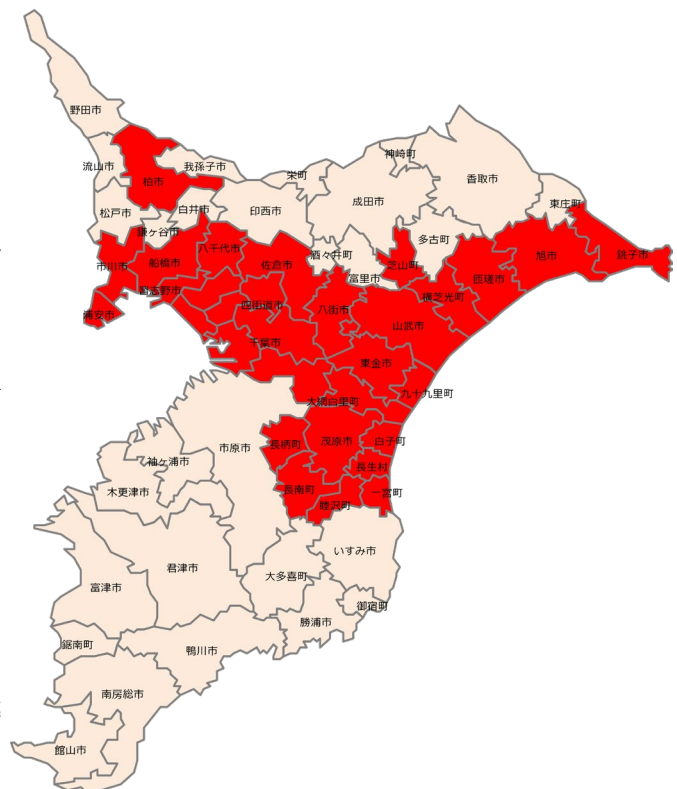
- ・安心して施設を利用できる
- ・公共施設であるので、生産者の負担なしで更新されている

○ 現状・課題

- ・パイプライ、用水路、J A 共同施設が老朽化しており、破損により利用できないか不安
- ・パイプライン、用水路の整備は、近隣生産者が費用負担となることから、合意を得るのが難しいことがある
- ・畑の灌水対策で井戸を掘る場合に費用が高額となる

※パイプラインとは地中にパイプを通して農業用水を送る給水管のこと

※J A 共同施設とは集出荷施設、選果場、保冷貯蔵庫等の組合員が共同で利用する施設のこと



- ↑・強く要望している加盟組織（赤）
- ・それ以外の加盟組織（ピンク）

○ 行政・J Aに取り組んで欲しいこと（行政に依頼：🏛️、J Aに依頼：🇯🇵）

要望先	要望内容
🏛️	気候変動に備えて栽培をコントロールできるように、灌水設備を導入して欲しい
🏛️	雨量の増加に対応した河川整備計画を整備して欲しい

10. 食育活動について

○ 理想

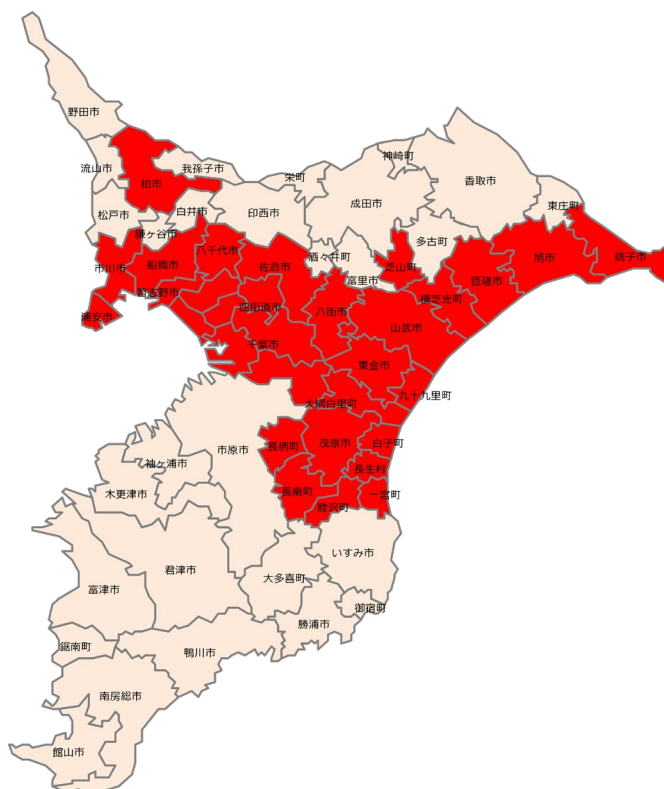
- ・消費者が安全・安心な国産農産物を理解して購入されている

○ 現状・課題

- ・価格の安さだけで購入されている
- ・農産物の価格に対する農業生産の苦労が知られていない

○ 我々青年部が取り組むこと

- ・ＪＡや行政などの食育イベントに講師として対応する



- ↑・強く要望している加盟組織（赤）
- ・それ以外の加盟組織（ピンク）

○ 行政・ＪＡに取り組んで欲しいこと（行政に依頼：行、ＪＡに依頼：Ｊ）

要望先	要望内容
行 行	ＪＡや行政がイベントをやる際に青年部に声掛けしてもらいたい

11. その他（J A・行政依頼事項）

※単組要望のうち、地域性が強いもの。🏠は行政への依頼事項、🇯🇵はJ Aへの依頼事項

<理解促進対策>

○PR・教育・消費拡大・イベント

- ・🏠海外における「日本産農産物」の認知度向上へ、輸出環境の整備をして欲しい

<個別対策>

① 政策全般

- ・🏠農業政策が短期的に変更されるため、説明会等の勉強の場を設けて欲しい
- ・🏠農業分野の補助事業に係る財源を安定的に確保して欲しい
- ・🏠補助金利用者の対象者拡大、提出書類を簡易化して欲しい
- ・🏠補助金の情報をスムーズに提供して欲しい

② 経営安定対策全般

- ・🏠生産コストを考慮した販売価格でなければ、農業経営は成り立たないため、再生産価格を補償して欲しい
- ・🇯🇵補助事業等有益な情報をメールやSNS等で速やかに情報提供して欲しい

③ 米政策

- ・🏠生産調整が廃止されたなかでも、稲作農家経営が継続できるような農業政策を講じて欲しい

④ 安全・安心（農薬）対策

- ・🇯🇵安全・安心、環境の価値が守れるような営農指導をして欲しい
- ・🏠薬剤の感受性試験を行い適正農薬・防除指針を策定して欲しい

<人材（職員）育成対策>

① 技術指導・補助事業等に強い人材育成対策

- ・🇯🇵職員の熟練者確保のため、職場内研修を実施し、指導内容を平準化して欲しい
- ・🇯🇵補助事業に関して相談できる人を育成して欲しい

<その他対策>

- ・🇯🇵農業に関連する融資を柔軟に対応してほしい
- ・🇯🇵通常活動のほか、青年部で研修や視察を行うための助成を拡充して欲しい

- ・  青年部のイベント等で J A の遊休店舗を利用させて欲しい
- ・  婚活イベントを開催して欲しい

千葉県農協青年部協議会ポリシーブックの取り組み経過

年度	月	活動内容
平成24年	12月	県青協版ポリシーブック策定
平成25年	2月	県選出国会議員への要請活動
	10月	県議会議員との意見交換会
〃	〃	県選出国会議員への要請活動
平成26年	11月	県選出国会議員との意見交換会
平成27年	4月	県農林水産部との意見交換会
〃	11月	県選出国会議員への要請活動
平成28年	11月	県選出国会議員への要請活動
〃	12月	県議会議員との意見交換会
平成29年	6月	県農林水産部との意見交換会
〃	〃	E U ・ E P Aにかかる政府・与党への要請活動
〃	11月	県選出国会議員への要請活動
平成30年	5月	千葉の農政を語る会
〃	10月	県選出国会議員への要請活動
〃	10月	第一回ポリシーブック検討委員会
平成31年	1月	第二回ポリシーブック検討委員会
〃	3月	第三回ポリシーブック検討委員会
令和元年	5月	県農林水産部との意見交換会
〃	6月	第四回ポリシーブック検討委員会
〃	8月	第五回ポリシーブック検討委員会
〃	9月	第六回ポリシーブック検討委員会
〃	11月	千葉県選出国会議員と若手農業者による千葉県農業を考える会
令和2年	11月	県選出国会議員への要請活動
令和3年	11月	県選出国会議員への要請活動
令和4年	10月	ポリシーブック検討会
〃	11月	県選出国会議員への要請活動
令和5年	10月	ポリシーブック検討会
〃	11月	県選出国会議員への要請活動
令和7年	2月	ちば自民党青年局県議会議員との意見交換会
	9月	ポリシーブック検討会